

全附P連 令和6年度 附属学校・PTA活動 情報紹介シート

所属学校名	広島大学附属三原学校園		
役職	PTA副会長（幼稚園）	氏名	竹本 昌幸
活動名称	幼少中+学校園OBによる交流活動		

1 はじめに

広島大学附属三原学校園の特色の一つに、「幼小中一貫を意識した授業・行事」があります。ここでは、幼稚園、小学校、中学校の異校種交流をメインとした、授業・行事を紹介します。自分の嬉しかったことを他の人にも分け与える、最高にカッコいいお兄さんお姉さん、そしてOBの姿をご覧ください。

2 PTA 行事

(1) やっさ祭り

「三原の夏はやっばやっさ」をテーマに今年も幼小中でお出場で参加します。幼稚園児と中学生では踊るペースも全然違ってきます。練習を重ね、最初は揃わなかった踊りも次第に息が合い、笑顔あふれる踊りへと変わっていくところが魅力的です。



(2) バザー

学校・生徒・保護者を繋ぐ、附属三原学校園の伝統行事です。コロナ禍で開催の見送りを余儀なくされていましたが、3年振りに飲食ブースを出店しました。子どもたちの「ありがとう」「楽しかったよ」「学校広いね」といった屈託のない言葉に、いつもやりがいを感じています。幼稚園からお兄ちゃん達のいる体育館へ行ってお菓子釣りゲームをしたり、チケットを持って自分で交換したりと、出来ることが次第に増えていくところに成長を感じています。



3 学年交流

(1) 幼稚園（年中）と8年生のふれあい体験

年中児は、8年生さんに憧れの気持ちを持っています。ペアさん（お兄さんお姉さん）とふれあうことで、自分の思いを受け入れてもらう喜びを味わったりすることを育んでいきます。我が子などは、学校園でペアさんにぼったり会い、声をかけてもらったりすると、「父ちゃんあのね、さっきペアさんとお話したんよ」とうれしそうに話しをしてくれます。多様性の包摂が求められるこれからの時代に、こういった経験が社会に貢献する志になるものと感じております。

8年生は、家庭科の学習の深化として、自分より幼い子とのかかわり方を学びます。この体験を通して、自分の幼いころを振り返り、自分もこれまでに家族をはじめとする多くの人々に支えられて成長し、今の自分があることに気付くことを期待しています。



(2) 運動会

今年度は、幼小中合同運動会を5年ぶりに再開しました。ここでは年中・年長児と4年生と一緒に「玉運び・ダンシング玉入れ」を披露しました。4年生は「一緒に玉入れ楽しもうね」など目線を合わせて、幼稚園児へ優しく声をかけてあげます。年長児は、踊りを考案しみんなに見せてあげます。最初は照れて恥ずかしい年中児も、お兄さんお姉さんの姿を見て張り切って玉を投げ出します。そうやって色々な姿で練習を行い、本番はみんなで力を合わせて楽しそうな姿を見てもらいました。



4 広島大学附属三原学校園の卒業生による講演会

本校の卒業生である、株式会社八天堂 代表取締役の森光孝雅様にご講演をいただきました。

本校の教育には「自ら伸びよ」という理念があり、“自伸会三信条”という3つの信条で支えられています。その中の1つに「私たちは人のために尽くして感謝しよう」という言葉があります。紆余曲折を経て森光様の今日がありますが、思い起こせば、人のために

尽くして感謝するという言葉が森光様を支えられてきたというお話でした。私も子どもと一緒に拝聴しましたが、私自身もまだまだその言葉の真の意味を理解する所まで至っておらず、子ども達にとっても難しいかなと感じたところです。しかし、これからの子ども達の長い人生のなかで、辛く挫けそうになった時に、子ども達を支える柱の1つになってくれればと思います。

